

論文紹介：TV 放送初期における関東地区のプロ野球中継数と巨人戦一極集中構造の研究

小林 叶聖 (22211147kk@tama.ac.jp)

1. はじめに

2. 今回はなぜ、プロ野球の中継数についての論文を選んだかというところと現在のプロ野球を見ていて明らかに、以前のプロ野球よりも地上波中継、観客動員数が減っていると感じたからである。

2. 問題と目的

全盛期には、毎日のように、地上波テレビにおいて、中継番組が組まれ、広くお茶の間に浸透していた。キー局における中継は、巨人戦に集中している感があった。だが、ここ数年では、関東地区での中継数は激減している。これは、関東地区には球団数に対し、中継が巨人戦に集中し、同球団戦の視聴率低下により中継数が減ったものと考えられる。

そこで、当初から本当に「巨人一極集中」だったのか、他球団の中継は、試みられてはいなかったのか？先行研究が無い中、単なる印象論ではなく、データ数値としてそれを確認してみたかった。

3. 方法

大きく3つに分けられる。まず1つ目は、中継数と観客動員との相関を検証した。中継数と観客動員及び観客動員率の相関関係に分けて調査した。2つ目は、中継数と順位との相関を検証した。中継数とチーム順位（年間順位及びシーズン中の順位推移）の相関を調べた。3つ目は、動員数と順位との相関を検証した。これで、観客動員率（観客動員数 / 球場の収容人員）とチーム逆順位の相関を調べた。

4. 結果

中継と観客動員の関係性については、巨人と横浜 DeNA の2球団（東京ヤクルトは逆相関）において、中継と順位の関係性については、横浜 DeNA と千葉ロッテの2球団において、観客動員と順位の関係性については、横浜 DeNA と東京ヤクルト2球団において、相関関係が認められることがわかった。

仮説で考えていた、野球中継のシェア・人気・強さの全三要素の関連性が認められたのは、横浜 DeNA1 球団のみであった。他の球団においては、三

要素の関連性は認められなかった。そのうち、まず巨人であるが、各要素の相関関係を見るまでもなく、6-1 基本分析で表示したデータの時点で他の関東4球団より数値が抜きんでていた。また、東京ヤクルト・北海道日本ハム・千葉ロッテの3球団は、三要素の多くの部分で、相関が弱いことを示している。すなわち、当時から、関東地区においてのプロ野球は、多くの点で、中継予定の実績、人気、強さに関連性無く、巨人の独り勝ち、一極集中構造が成立していた、という仮説が証明出来た。

表 11. 各球団別の3要素（中継シェア・人気・強さ）の関係

	表11 各球団別の3要素（中継シェア・人気・強さ）の関係				
	巨人	横浜DeNA	東京ヤクルト	北海道日本ハム	千葉ロッテ
中継×動員	相関	相関	逆相関	弱い	弱い
テレビ×動員	相関	相関	弱い	弱い	弱い
中継×逆順位	弱い	相関	弱い	弱い	相関
テレビ×逆順位	弱い	相関	弱い	弱い	相関
動員×順位	弱い	相関	相関	弱い	弱い

5. 考察

仮説で考えていた、野球中継のシェア・人気・強さの全三要素の関連性が認められたのは、横浜 DeNA1 球団のみであった。すなわち、当時から、関東地区においてのプロ野球は、多くの点で、中継予定の実績、人気、強さに関連性無く、巨人の独り勝ち、一極集中構造が成立していた、という仮説が証明出来た。

6. おわりに

少なくともテレビ放送が始まった時代からは野球中継のシェア・人気・強さの全三要素の関連性が認められなかったというのは意外であった。また、現在の野球においての相関も調べてみたくなった。

7. 引用文献

水上圭輔 (2014) . TV 放送初期における関東地区のプロ野球中継数と巨人戦一極集中構造の研究. *DHUJOURNAL*, 9-16